「こうわん・くうこう」だより niijima・shikinejima 新島・式根島

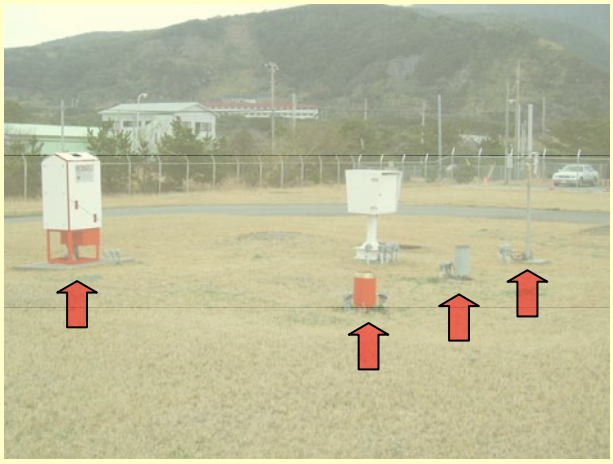
発行平成 18 年 3 月

空港管理事務所のお仕事

突然ですが、空港管理事務所で航空気象観測業務を行っていることをご存知でしょうか？

気温、気圧、風向・風速、降雨量・降雨強度、視程、雲量・雲高を観測し、1 時間ごとにそのデータを東京航空地方気象台に送信しています。

風向・風速計（片方は予備）



左から、雲の高さを測るシーロメーター、
雨量計、降雨強度計、温度計

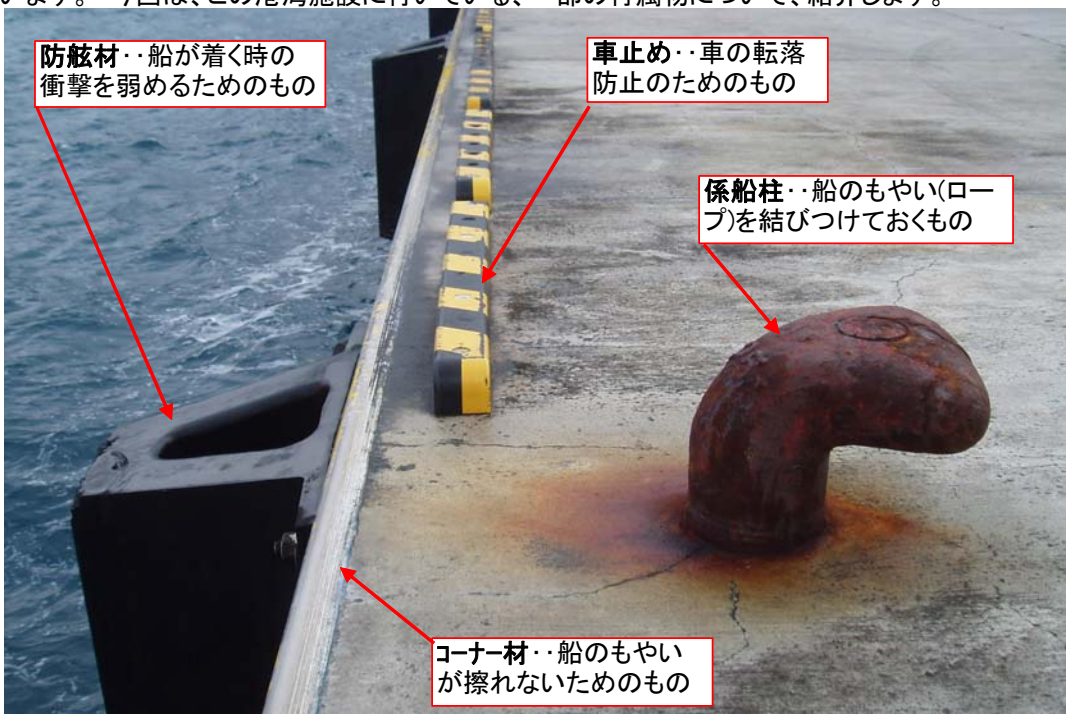
この中で、視程、雲量・雲高という言葉は聞いたことがないかもしれませんが、視程とは何キロメートル先まで、見通せるかをいい、雲量・雲高とは文字どおり、雲の量と高さのことをいいます。新島－調布間は有視界飛行となっており、パイロットの目視によって航空機を操縦することになっています。その場合、視程が 5 km以上でかつ、雲高・雲量がそれぞれ 1,000ft 未満に 5/8 未満でないと飛行機は飛ぶことができません。新島空港では、空港から見える地内島の見え具合を参考に視程を決定しています。雲量は空全体に対する雲の占める割合を0/8から8/8の9段階で表し、高さは雲の高さごとにフィート（1ft=0.3048m）で最大 4 層まで観測し、新島の気象情報として提供しています。

この状態で、視程６kmとなる

この状態で、視程 10 kmとなる

港の付属物たち(その1)

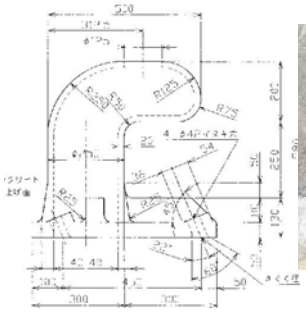
港の岸壁、物揚場、船揚場などの施設は、コンクリート製ケーソン・ブロックや鋼枠などの大きな構造物で出来ていますが、十分に機能を発揮するために、たくさんの小さな構造物でなりたっています。 今回は、この港湾施設に付いている、一部の付属物について、紹介します。



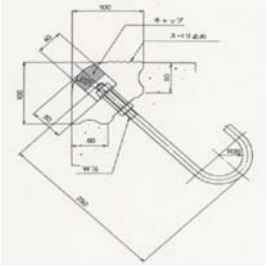
係船柱…新島港のものは、さるびあ丸(排水量5000t)のけん引力に対応できる35t曲柱がついてます。
船の利用形態(岸壁両側接岸など)に併せて、直柱を使う場合もあります。
(昔、新島港桟橋のときに使われていました。その名残りが岸壁の奥、よう壁の下にうずくまっています。)

直柱

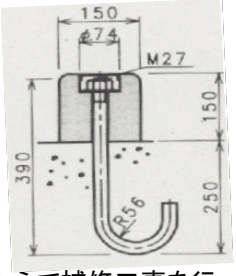
曲柱→



コーナー材…新島港のものは、樹脂製とアルミ製が使われていますが、昔は鋼製で鉄板を組み合わせて車止めと一体構造として作っていました。



車止め…樹脂製のもので、車が時速30kmのスピードでぶつかっても大丈夫です。
夜間の安全のためにキャッツアイ(反射板)が一部付いているのもあります。



※ これらの付属施設は台風・事故などにより壊れ、毎年どこかしらで補修工事を行っています。
みなさまのご理解・ご協力をよろしくお願いします。

発行：新島港湾空港管理事務所 TEL04992-5-1267 FAX5-1537 n-kuukou@orion.ocn.ne.jp
新島港湾空港工事事務所 TEL04992-5-0086 FAX5-1520 rito-2@orion.ocn.ne.jp